

科 目 名	認 知 心 理 学					開 講 キヤンバス	神 園
担 当 者	今 村 義 臣						
開 講 年 次	1	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	脳科学の発展により、従来の哲学、宗教、あるいは心理学で培われてきた人間観が大きく変化しようとしている。脳は、以前に考えられていたようなブラックボックスでは決してない。“意識とは何か”を統一テーマに最近の脳科学の諸知見を交えながら心理学のさまざまな研究分野を紹介していく。						
授 業 の 到 達 目 標	心理学の基本的知識を得ることができる。 脳に関する知識を得ることができる。 脳と心の関係を科学的に捉える（神経細胞と分子の働きを知る）ことができる。 科学的な理解・思考の修得に役立つ。 意識研究に関する新しい知見を習得できる。 意識研究に関わる新しい実験法を知ることができる。 哲学・宗教的知見と脳科学の関係についての考察の手助けとなる。 生きる意味について考える契機となる。 人間を理解する（共感する）手助けとなる。 人ととの関係（絆）を理解する手助けとなる。						
学 習 方 法	講義						
テキスト及 び参考書等	プリント配布。参考書は適宜紹介する。						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%		
定期試験	◎	◎				85	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			○			15	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	オリエンテーション						
第 2 週	脳と心 1 脳と心の考え方について心理学の立場を紹介する。						
第 3 週	脳と心 2						
第 4 週	視覚的意識 1 意識研究では最も進んでいる分野である視覚の情報処理を概観する。特に無意識的処理の役割について考察する。						
第 5 週	視覚的意識 2						
第 6 週	視覚的意識 3						
第 7 週	視覚的意識 4						
第 8 週	無意識の再考 1 分割脳、幻肢、共感覚等を紹介しながら脳のメカニズムを見ていく神経生理学的立場から再考したフロイドの無意識について考察する。						
第 9 週	無意識の再考 2						
第 10 週	無意識の再考 3						
第 11 週	無意識の再考 4						
第 12 週	情動と意識 1 意識における情動の役割を社会心理学や脳神経生物学の諸知見を交えて考察する。ホルモンや神経伝達物質の働きについても紹介する。						
第 13 週	情動と意識 2						
第 14 週	情動と意識 3						
第 15 週	情動と意識 4						
第 16 週	試験						
備 考	配布資料は常に持参すること。ノートをとること。						